全国建設青年会議

第30回

全国大会

30TH ANNIVERSARY

日時 2025.12.5 会場 リーガロイヤルホテル東京

CONSTRUCTION コンストラクション・プライド PRIDE

想いを共有し、そして伝えたあの日から 未来に向けたさらなる一歩へ

第30回の節目となる大会、テーマに掲げたのは「コンストラクション・プライド」だ。

建設業界人が仕事やその成果、立場や責任に誇りを持つべき大切な価値観を表す言葉であり、地域と暮らしを支える仕事の成果・立場・責任に誇りを持つ価値観を共有し、共感を原動力にする言葉だ。

「選ばれる業界No.1へ。未来を変えられるのは、我々だけだ」――これを実現するために、30回の歴史を振り返り、想いを見つめ直し、これからの行動につなげるヒントを得た。その大会を振り返る。

OPENING

30回の歴史を振り返り
金子国交大臣あいさつで開催

会場となったリーガロイヤルホテル東京には、全国の会員や国土交通省の来賓など約600人が集った。

大会ではまず、スクリーンに全国建設青年会議の過去を振り返る動画が流れた。「さあ、プライドを伝えよう」。そして音楽が参加者たちの意識を高めた。

そして、岡田大会会長が挨拶を行って幕が上がる

と、金子恭之国土交通大臣が、地域を守る地域建設企業に感謝の意を表するとともに「建設業の働き方改革を着実に進めるとともに、担い手の確保・育成に全力を尽くす」と来賓挨拶。

音楽と想いと、そしてお祝いの言葉により、盛大な開催となった。

黒栁向巨副会長

岡田大会会長

金子恭之国土交通大臣

CONSTRUCTION
PRIDE

SPECIAL LECTURE

特別講演

国土交通省 技監
廣瀬 昌由 氏

Masayoshi Hirose

MY CONSTRUCTION PRIDE

講演に登壇した国土交通省の廣瀬昌由技監は、当初は「建設業を巡る最近の話題」として今の建設業を取り巻く状況と未来の展望について講演する予定だったというが、大会のテーマである「コンストラクション・プライド」に合わせ、サプライズでその内容を変更して登壇した。

その新たな講演は、自身がいかに「建設」という仕事にプライドを持ち、接してきたか。幼いときに見た土木構造物から、国土交通省の職員として携わってきた工事や発注案件を振り返り、そのうえで今の課題と未来像についてを「熱く」語った。

プレゼンの手法もサプライズだった。スライドにはまず動画を流し、そして自身も会場後方から登場。そのまま会場を周遊するようにして講演しながら、壇へと昇った。

さらに途中、スライドの画面説明をする際には壇からジャンプして降りるなど、その動きも若々しく、建設青年会議の参加者たちと想いだけでなく動きも合わせ、過去と未来を伝えた。

PITCH CONTEST

各ブロック代表によるピッチコンテスト

わたしのコンストラクション・プライド

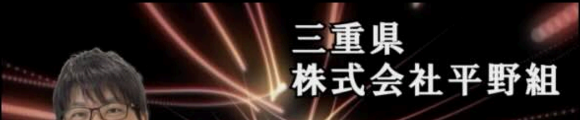
9ブロックの代表が
コンテストに登壇

今回の大会では、「5分」という短い時間のなかで、テーマである「わたしのコンストラクション・プライド」についてプレゼンする「ピッチコンテスト」を実施。9ブロックそれぞれから代表

が集い、熱く発表した。

ここでは、コンテストの模様のほか、登場を盛り上げた紹介動画も振り返ろう。

全国建設青年会議 第30回全国大会
PITCH CONTEST
「わたしのコンストラクション・プライド」



中部ブロック

平野組（三重県）平野高大取締役

「科学者として建設業を
通して人を幸せにする」

鹿児島県
ヤマグチ株式会社
取締役副社長
口 秀典

九州ブロック

ヤマグチ（鹿児島県）山口秀典代表取締役副社長

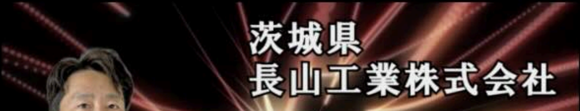
「地域建設業を
プロデュースしていこう」

富山県
松嶋建設株式会社
代表取締役専務
松嶋 幸治

北陸ブロック

松嶋建設（富山県）松嶋幸治代表取締役専務

「地方学生と挑む！
広域災害での宇宙技術」



関東ブロック

長山工業（茨城県）長山朋之代表取締役

「若手人材の確保に向けて
～入職率UP　離職率DOWNのために～」

高知県
福留開発株式会社
取締役
場 将史

四国ブロック

福留開発（高知県）大場将史代表取締役

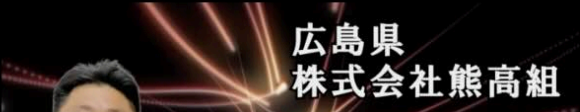
私が高知で建設業に従事する意義

滋賀県
株式会社大翔
専務取締役
吉田 翔太

近畿ブロック

大翔（滋賀県）吉田翔太専務取締役

日本のシビルエンジニア」



取締役副社長
熊高 洋一

中国ブロック

熊高組（広島県）熊高洋一取締役副社長

「会長
どこまで任せるんですか？」

北海道
秋津道路株式会社
取締役社長
渡辺 慶人

北海道ブロック

秋津道路（北海道）渡辺慶人代表取締役社長

「コンストラクション甲子園
～未来を創る若き力～」

福島県
菅野建設株式会社
取締役
野 太喜

東北ブロック

菅野建設（福島県）菅野太喜常務取締役

「リ・スタート to リ・ブライト
～輝ける未来へ～」

AWARD CEREMONY

表彰式

そしてこのコンテストの勝者となったのは、高校生を対象にした建設業のクイズ大会「コンストラクション甲子園」を行っている北海道建青会の渡辺慶人氏だった。

審査員と会員の投票により決まったこの勝利。鍵となったのは取り組みの「広がり」だ。全国でコラボして実施できるものであり、表彰式で表彰状を渡すプレゼンターとなった廣瀬技監もその内容に大きく賛同するとともに、取り組みでコラボレーションする可能性についても触れた。

優勝者は後日、国土交通省内で廣瀬技監と対談する栄誉も得た。表彰状と対談権が記された副賞が渡されると、会場は大きな拍手に包まれた。

全国建設青年会議 第30回全国大会
全国建設青年会議
第30回全国大会
PitchContest
WINNER
パネリスト

全国建設青年会議
ZENKOKU KENSETSU SEINEN KAIGI
第30回全国大会
コンストラクション プライド
～想いを共有し、そして伝えよう～
PitchContest
WINNER

AFTER TALK & PANEL DISCUSSION

アフタートーク

ピッチコンテストのプレゼンテーションを受け、4人パネリストたちが「共感したこと」「感動したこと」「心に刺さったこと」などをアフタートーク形式でディスカッション。和気藹々としながらも鋭い意見が出た。

参加者たちからのうなずきも多く、「仮囲いを透明に替えたらどうか」や「現場にカフェを設置して開かれた雰囲気を出すのも手」、「異業種とコラボしてPRするべき」といった話が挙がった。

【ファシリテーター】
小林 拓一郎 氏
ラジオナビゲーター

【パネリスト】
酒井 真一 氏
新建新聞社編集長

【パネリスト】
東 香織 氏
重機女子／インフルエンサー

＋

【パネリスト】
清水 良保
全国建設青年会議

ENDING

全国建設青年会議
全国大会
30th
Anniversary

大会の最後には、佐々木大会副会長が大会宣言。「熱きプライドを携えた建設青年人たちよ、さあ行こう」――と未来への一歩を宣言するとともに会場に大会記念ビデオが流れ、記念の会を締めくくった。

全国建設青年会議 第30回全国大会

懇親会

大会後、そのまま会場を整えて開かれた懇親会では、全国の「建設青年人」たちが交流した。

岡田会長やけんざか茂憲参議院議員、全日本建設技術協会の大石久和会長、国土政策研究所の谷口博昭会長ら錚々たる面々のあいさつと、国土交通省中部地方整備局の森本輝局長による乾杯で、懇親会は大いに盛り上がった。

全日本建設技術協
会・大石会長

国土政策研究所・谷口会長

国交省・廣瀬技監

中部地方整備局・森本輝局長

全国建設青年会議 第30回全国大会

SPECIAL DISCUSSION

特別対談

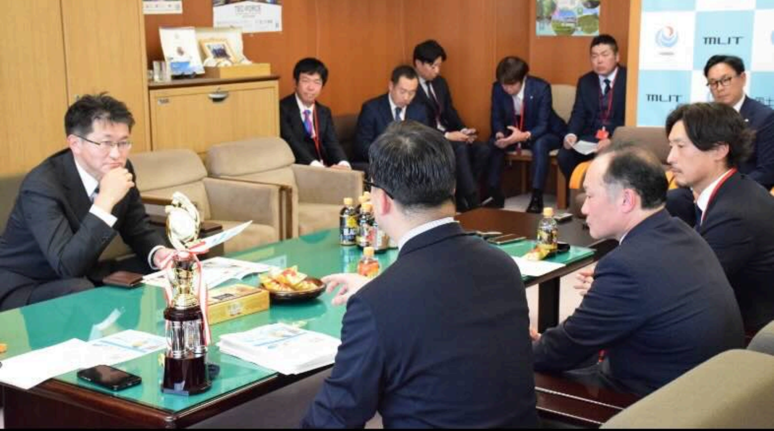
ピッチコンテストで優勝した北海道ブロックが、優勝特典として国土交通省技監との対談を1月23日に行った。登壇者の渡辺慶人氏（秋津道路）のほか、北海道建青会の柏谷匡胤会長、道東での初開催から中心的役割を担ってきた萩原一宏氏らが同席し、国土交通省で廣瀬昌由技監と「建設業の魅力発信」をテーマに意見を交わした。

国土交通省で北海道ブロックが廣瀬技監と対談。全国大会を主管した中部建設青年会議と、第31回全国大会を主管する四国建設青年会議のメンバーが立ち会った。司会は新建新聞社の酒井が担当。

まず、北海道ブロックがコンテストで発表した高校生向け建設業クイズ大会「コンストラクション甲子園」について、その経緯を説明。「帯広は高校を卒業したら地元を出る学生が多かった。地元の建設業を知ってほしくて企画した」と述べると、続いて渡辺氏が「僕らの仕事が知られていないことに危機感を感じた」と率直な思いを語り、大会後に参加者が地元の建設業に入ったという成果についても触れた。

意見を交わす北海道ブロック。奥から渡辺氏、柏谷会長、萩原氏。

対談の核心は、コンストラクション甲子園を全国に広げるための官民連携だ。柏谷会長が「コンストラクション甲子園を全国に広げたい」とし、官民が一緒に取り組める後押しを求めると、廣瀬技監は、国交省や地方整備局など官でも入職の厳しさが増している現状に触れ、「魅力を感じてもらうことが大事。ぜひやらせていただきたい」と支援の意思を示した。さらに「皆さんの知恵とわれわれの知恵が一緒になることは大きい」とした。



廣瀬技監は支援の意思を示した。

廣瀬技監はさらに、業界と行政がコラボレーションする際の例として「TEC-FORCEパートナーとして統一感のあるビブスを着る」「重機にマグネットを貼って露出を増やす」などのアイデアも提示。「いろいろなことに挑戦してほしい」とした。

全国大会のコンテストで示された挑戦が、霞が関での対談を経て、全国へ広げる段階に入った。全国大会がゴールではなく、次の行動のスタートになる――その象徴となる一日だった。

INTERVIEW

大会を振り返って

第30回全国大会 大会会長
岡田 司 氏

Okada Tsukasa

一緒にやって、
一生の絆を得たという感じです

――節目の大会でした。振り返って、どうでしたか？

大成功だったと思います。熱量を感じる大会にしたいとやってきましたが、本当に会場が熱気にあふれていて、大盛り上がりだったと思います。

――次回につながるものでした。

ストーリーとしては、全国大会当日がゴールではなくて、（大会の日からが）スタートになるような、あそこでインプットしていただいて、地元に帰ってアウトプットしてもらうという、そういう仕掛けで考えていましたので、ある程度イメージどおりになったかなと。

――大変だったところは？

やっぱり30回というプレッシャーがありました。ただ、綺麗にまとめるというやり方もあったのですが、「今までにないことをやろう」と途中でギアを変えていきまして、演出に力を入れるとか、怒られないギリギリを攻めていこうかなと思いました（笑）。

——ギアを変えたというのはどんなタイミングでされたのですか？

実行委員会のみんなで話し合ったときですね。委員の皆さんや調整官とも話して「まとめるのも面白くないよね」「せっかくならやろう」と、だんだん変わっていったというところですかね。

——そうやって当日を迎えたわけですが、緊張しませんでしたか？

それが、当日は本当に楽しかったです。最後の1週間くらいは「風邪引いちゃいけない」とかものすごくプレッシャーを感じていたんですけど、当日みんなと集まって顔を見たら「楽しみたいな」と感じるようになりまして。吹っ切れたというような感じでした。

——終わって皆さんで、どんな感じでした？

本当に「やり切った」という感がありました。最後の懇親会の締めの挨拶を事務局長がやったんですけれど、ちょっとグッと来ていて、それを見て感動しましたね。

一緒にやって、一生の絆を得たという感じです。卒業すると、他県の方と会う機会が本当になくなってくると思うんですけど、この絆はなくならないだろうなと思っています。中部のメンバー一人一人が「プライド」を持って大会に取り組んでくれたことがこの成功につながったと思いますので、本当に感謝しております。

——次回へバトンをつなぎました。

次は四国さまが主管をやられますが、我々は全力をあげて協力しますし、ぜひ新しいチャレンジをしていほしいなと思います。

——最後に、今回の大会に参加した皆さん全員にメッセージをいただければ。

29回大会から、みんなで創り上げる大会へと方針

が切り替わったと思っておりまして、本当に30回大会はみんなで創ったと考えています。ぜひこの輪を広げて、今回の大会をスタートラインに、各地でプライドを伝えていっていただければ嬉しいです。

次回に向けて

第31回全国大会 実行委員会
四国建設青年会議の皆さん

大会会長・越智 雅一 氏、大会実行委員長・齋賀 仁 氏、
大会実行副委員長新居 健一 氏、大会事務局長・小野 洋平氏、
事務局長・白石 尚寛 氏、ピッチコンテスト登壇・大場 将史 氏

「『ともに』をテーマに、『ともに』やって行きたい」

――次回大会に向けて、意気込みを教えてください。

会長：第30回という区切りを迎えての、31回となるので、今までにないようなことができたらいいな、と思っています。

全員：詳細はネタバレになるから、あまり言えませんが（笑）。

会長：四国としては、全国でも25年早く人口のピークを迎えて、そこから生産年齢人口がどんどん少なくなっていくという地域に回ってきたということで、魅力ある建設産業が今後もやっていけるようなきっかけになる全国大会にしたい、というのが一番のことだと思っています。そんな中でや

らせていただくということで、会長個人として私も四国地方整備局さんと「ともに」さまざまなことを今までやってきたつもりなんですけど、この「ともに」やっていきたいというのがメンバーの声としても出てきて、これは「ともに」をヒントにして行きたいなと考えています。

——「ともに」がキーワードになる。

会長：はい。今回「ともに」をテーマに、「ともに」やって行きたいという声がメンバーから出たのは、「ああ、会長やっていて良かった」って思いました。

——皆さん、「ともに」ですね。

全員：もちろんです！

会長：私たちは、何かあれば電話やLINEで連絡を取り合って、とにかくフットワーク軽く、私たちの中では「ワンデーレスポンス」ができていると思うので、そんな中でいろいろなことをやっていきます。

——みんなでいろいろな役割をやっていくことが

できるわけですね。そうして来年の12月に向けてスタートしたわけですが、どんなことをやっていかれますか？

会長：そうですね、もういろいろなことをみんなで話していて、改めてスタートということではなくなっていますね。

実行委員長：なんかもう、既に始まっている。

――なるほど、もうスタートはしていて、進んでいる。

会長：でも、うまく皆さんに伝えたいのは、皆さんが自主的に「面白そうだ」という気持ちを持って、そうやって進めていきたいというのがあります。

――「面白そう」という気持ちが出れば、「ともに」みんなでどんどんやっていくことができるわけですね。

会長：そうですね。そして我々自身も「面白そう」という気持ちを持ってやっていきたいと考えています。

全員：四国らしさという点では、コンパクトなことも特徴ですね。

会長：四国内ならどこにいても1時間半もあれば会って話し合うことができますし、事務局も自分たちが自前でやっているので、「こんなことがやりたい」という声が出たら、連絡取って「じゃあいついつ行きます！」とやっているんです。

――素晴らしいですね。そんな四国の皆さんと「ともに」やっていく企画調整官（四国地方整備局・森山氏）に、最後に意気込みを伺ってもよろしいでしょうか？

企画調整官：はい、四国の建設青年会議の皆さんは熱い想いを持った、個性的な方ばかりなので、その想いに負けないように「ともに」頑張っていきたいと思います。

全員：ありがとうございました！

全国建設青年会議

第30回

全国大会

日時 2025.12.5 会場 リーガロイヤルホテル東京

30TH ANNIVERSARY

CONSTRUCTION PRIDE

コンストラクション・プライド

第30回全国大会 実行委員会／冊子制作

大会会長	岡田 司
実行委員長	清水 良保
大会副会長	佐々木 浩人
	中村 仁志
	黒柳 向巨
事務局長	鳴海 宏樹
実行委員	山野 浩
	杉山 一樹
	河津 元
	加藤 政太郎
	池田 幸寛
	池端 崇一郎
	宮下 将尚
	金子 健一郎
	桐山 智光
	松野 史博
	中島 純一
	増田 慎平
	渡邊 裕介
	髙木 賢一朗
	近藤 智義
	神野 晋也
	有城 和哉
	杉本 智哉
	山下 哲史
	梅田 宜嗣
ミュージックビデオ、冊子デザイン	新建新聞社